

西谷 みさを（にしや・みさを）

1、プロフィール

70有余年の長い柳歴を誇る、川柳界の重鎮。初めみちのく吟社に拠って、後に津可呂川柳社を興す。制作・普及・後進育成と精力的活動を続け川柳王国青森県の一翼を担う。

<生没>

1903(明治 36)年2月1日 ~ 1994(平成6)年5月3日

<代表作>

川柳句集『洗い髪』

<青森との関わり>

青森市米町に生まれる。青森市で津がろ川柳社を主宰。47年青森市文化表彰、51年文化賞受賞。

2、作家解説

柳人。明治 36 年青森市米町に生まれる。本名圭介。青森県師範学校付属小学校、続いて同男子付属小学校高等科に進む。ここで俳句制作を習い、文学的萌芽を育てる。中学進学の際、家業専念の意を持つ父圭一と曲折があり、退学。その後、資格検定に合格し、大正 11 年明治大学経済学部に入學するが、翌 12 年父の病気のため、退学帰郷。この頃、淡谷しづくの善知鳥(うとう)吟社に参加、漁火の雅号で俳句に励んだ。同人の一人が川柳に熱して俳句を怠るようになったため、談判説得に行くが逆に川柳制作を説得されて転向、俳人から柳人となった。

大正 10 年、井上剣花坊の影響で川柳に本格的に興味を持つ。大正 13 年、みちのく吟社青森支社設立。同年、みちのく吟社本社の同人にもなる。昭和3年、あきた川柳社を設立主宰、柳誌「あくた」発行。昭和5年、津がろ(津可呂)川柳社を

結成。これは、青森市内の各川柳社が合同したものである。機関誌『川柳津がろ』を発行。

42 歳、敗戦。この後、ますます精力的な活動がなされていく。23 年、NHKラジオ青森放送局の川柳講座を担当。25 年1月から川柳コント合戦の放送に出演。26 年、編著『青森県川柳句集』刊行。30 年、東奥日報時事川柳欄の選者。38 年、川柳句集『洗い髪』刊行。同年、長年の精進と貢献が認められて、後藤蝶五郎賞が贈られる。41 年、東奥日報社より、柳壇選者としての功績で感謝状。47 年、青森市文化表彰。51 年、青森県文化賞受賞。63 年、地域文化文化功労者。平成6 年5月3日、永眠。青森市「文芸のこみち」に「たゆたうてやがて花びら又流れ」の句碑が建つ。

一握りしかない母の洗い髪(『洗い髪』)

3、資料紹介

○『洗い髪』

図書

1963(昭和 38)年8月1日

220mm×160mm

津可呂川柳社(青森市)発行。40 余年の柳歴の 520 句を収める集成。人生の大半を川柳に捧げた著者のほぼ全容が見渡せる。また、川柳の無限の広がりと味わいの深さがうかがわれる。本県柳人に待望された柳句集である。巻末に著者の発行時までの柳歴を付す。